



こいのぼり掲揚作業を行う庄内商工会青年部



Smiling faces of miyakonojo

「地元をもっと元気に！」

庄内商工会青年部

暖かな春の日差しを浴びながら、大空を力いっぱい泳ぐ150匹のこいのぼり。庄内町を流れる庄内川の堤防沿いで、地元の春の風物詩となっているこいのぼり掲揚に取り組んでいるのが、「庄内商工会青年部」の皆さんです。

同青年部は、旧庄内町地域のさらなる活性化を目的に昭和45年6月に結成。50年以上の歴史を誇ります。「地元をもっと元気に！」を合言葉に、45歳までの事業主やその後継者など22人で活動しています。現在に至るまで、冬の庄内商工会周辺を彩る「イルミネーション事業」をはじめ、関之尾町の北前公園で毎年8月に開催する「関之尾ピアガーデン事業」などに注力。さらに、庄内町西区で行われていた無病息災を願う伝統行事「おねっこ事業」を平成27年1月に復活させるなど、庄内地区が持つ宝を生かしながら活気あふれる地域づくりに貢献しています。

中でも、庄内地区はもちろん、市内外の多くの人々に親しまれている取り組みが「庄内川堤防鯉のぼり掲揚事業」です。本事業は、地域の活性化を目指して昭和63年に開始。「子どもたちの健やかな成長を願うとともに、地域住民をはじめ観光客にもこの景観を楽しんでもらいた



「新型コロナウイルスに負けない！」との意匠を込めて堤防入口に設置したメッセージ

い」という同青年部の熱い思いが込められています。

毎年、家庭から譲り受けたこいのぼりや、子どもの名前と生年月日を記入したこいのぼりを掲げていて、今年は4月4日に掲揚を行いました。作業は当日の早朝、竹山に入るところから始まります。高さ約10メートルに切りそろえた竹30本を積み込んで現地まで運び、一列に設置した後、黒・赤・青・緑・橙の5色のこいのぼりを5匹ずつくりつけます。霧島山を背景にずらりと並んだこいのぼりの様は圧巻そのもの。今年4月まで部長を2年間勤めた萬代憲治さんは「竹の確保や人手不足のため、掲揚までの道のりが苦しい時期もあったが、青年部OBや地域の皆

さんに支えられてここまで続けられた」と振り返ります。

昨年は、県および市の補助制度を活用してこいのぼりの設置強度を高め、安全性にさらに配慮したほか、ベンチの設置や季節の花々を植えるなど、1年間を通して楽しめる場所となった庄内川堤防。「こいのぼりが大空を舞う風景を笑顔で写真に収める姿を見かけたとき、達成感を感じる」と笑顔を見せるのは、新部長の松永龍太さん。今後の展望について「地元や行政と連携しながら、地域のさらなる活性化のため、これまで続けてきた伝統事業を若い世代につなげていきたい」と決意新たに力を込めていました。



平成31年に開催したおねっこの様子

庄内川こいのぼり掲揚を、
若い世代につなげていく！

Smiling faces of miyakonojo

人の風景